2019/5/23 第二号

# 校長先生登場のテーマ曲　その２
## ーこれは一体何だ？ー

「これは一体何なんだ？」　これが、前号の《校長先生登場のテーマ曲》を聞いた感想であろう。何のために、だれが作曲したのかなど、意味が分かる人はいないであろう。本号でその意味を説明する。と同時に、この曲を聞いた教職員・子どもたちの様子も紹介することになる。その様子もなかなかおもしろい。
それらのことを公立の日枝小校長として学校だよりに書いたことがある。それを引用する。

「校長先生　登場のテーマ曲」

たわいない話である。
夏休み荷物を整理していた。一本の録音テープがでてきた。そのテープには「松永校長先生　登場のテーマ」とラベルが張ってあった。思い出した。数年前の夏休み一緒に仕事をした若い先生が「仕事を一緒にしてとても勉強になった、そのお礼です」とプレゼントしてくれたものである。
アントニオ猪木にリング登場のテーマ曲がある。その松永版であった。「アンドロメダー、宇宙の果てからやってきた、知恵と勇気をもって～」というバージョンと「あれはなんだ、宇宙人だ、恐竜だ、いや違う、アンドメダ松永だ～」のバージョンがある。
その先生はミキサーを使い、作曲・作詞・歌までもひとりでやったという。素人にしては上々のできばえと、私は思うのだが・・・

夏休み職員室にいた職員に聞かせた。
若い職員は面白がっていた。「朝会で流そう」とか。でも、半分くらいは私に対するお世辞かなと思った。「若くない」職員はいぶかしがる。「なに、これ」と、とまどう、そんな感じである。「全国広しと言えども、テーマ曲をもった校長は私一人である」と私が自慢しても、乗ってくる職員は少なし。
そこで、子どもはどう思うのかと、ある一人の子に「内緒で聞いてくれる」と聞いてもらった。その場では面白がっていた。私は「この曲聴いたのは、あなたがこの日枝小で初めてだよ」とおだてて、「仲良しの友だちをつれてきてもいいよ。聞かせてあげるよ」と誘ってみた。
しかし、それ以後、だれもこの曲を聞きにきてはいない。

この曲には、私の思い入れがある。冒頭に書いた「数年前の夏休み一緒に仕事をした若い先生」の「一緒に仕事」である。この仕事は、大成功を収めたと思う。その仕事の仲間に共通のやりとげたという成就感、「仲間・同士」という連帯感が生まれた。
その感動の中にこの曲は位置している。その「一緒に仕事」の仲間がこの曲を聴くと、そのときの感動を思い出す。その感動をともにしていない日枝の職員には、この曲は「なに、これ」でしかない。当然のことである。

子どもたちが生活を共にする、活動を共にするとき、そこに生まれる感動・連帯感、感情的なつながりが、クラスを「仲間・同士」としていく。
もうすぐ、日枝っ子まつり。子どもたちが楽しみにし意欲的に活動する学校行事である。

曲の経緯や意味は理解いただけたと思う。が、それが《関東学院六浦小》にどう関係するのかという疑問は依然として不明のままである。次号にそれを・・・